

▲▽▲▽海員組合担当支部へようこそ▲▽▲▽ 気仙沼支部

気仙沼市は、宮城県の北東端で岩手県との県境に位置し、古来より沖合に良好な漁場を持ち、地形としても恵まれた漁港として漁船漁業が栄え、全国の漁船が利用しています。気仙沼市場には、近海マグロ延縄漁船によるマグロ類・メカジキ・サメなどが年間を通じて水揚げされ、6月～11月末まではカツオ、9月～12月はサンマの水揚げがある全国有数の漁港です。

支部が担当している会社は、遠洋マグロ延縄漁船、近海マグロ延縄漁船、遠洋カツオ一本釣漁船、サンマ棒受網漁船、漁業取締船です。気仙沼市は水産加工会社、造船関係会社など漁船に関連する会社が多い港町であり、毎日多くの漁船が水揚げおよび整備のため入港します

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた当地区も、一步一步確実に前に進み、気仙沼本道と大島とを結ぶ気仙沼大島大橋（愛称＝鶴亀大橋）が2019年4月7日に開通し、復興道路（三陸自動車道）の一部を成す気仙沼湾横断橋（愛称＝かなえ大橋）も、橋長が1344mでこのうち海上部の長さは680m、2021年3月6日に開通し1年が経過しました。

気仙沼湾横断橋の開通で三陸自動車道の宮城県仙台市～気仙沼市の区間（115km）が一本につながりました。

また、昨年12月18日に全区間がつながり、宮城県仙台市～青森県八戸市まで360kmが復興道路として開通しました。

大島を歩く

気仙沼湾に浮かぶ大島。この島に架かる気仙沼大島大橋は鶴亀大橋の愛称で呼ばれ、全国でも珍しい大型のアーチ橋で、橋の長さは297m。

気仙沼大島には見どころも多く、島の北側に位置する標高235mの亀山の山頂からは、唐桑瀬戸や浦の浜、小田の浜を一望し、リアス式海岸の美しいパノラマが広がります。展望台からは、唐桑半島側の入江に並ぶ養殖いかだの素晴らしい光景も望めます。

気仙沼大島の代表的な景勝地は龍舞崎で、島の最南端に位置します。クロマツ林の中に整備された遊歩道を進むと、岬の先端に龍舞崎灯台があり、その岬から望む太平洋は、海食による荒っぽい岩礁と打ち寄せる青い海が独特の景観を創り出し、まるで龍が舞いあがるような雰囲気を感じることができます。

島の隠れたスポットに十八鳴浜があり、島の北東部にある長さ200mほどの砂浜ですが、砂を踏むと「クックツ」と鳴ることから（9+9=18）、この十八鳴浜という名前が付けられ、国の天然記念物に指定されています。

島の西側にある浦の浜港は、大島汽船が113年にわたり大島と本土を結ぶフェリーの発着所として活躍しましたが、気仙沼大島大橋が開通し、その役目を終え、現在は栈橋にぶら下がるフェンダー用のタイヤがフェリーの面影を残し、岸壁が静かにたたずんでいます。